

# 2011年度開発輸入企画実証事業実施報告書

## 「シェラレオネ産カカオ及びカカオマス」

### 第1章 事業概要

#### 1.1 目的

カカオの生産に適した気候・土壤環境を持つ西アフリカの小国、シェラレオネは日本では一般的にその国名を知る人を見つけるのが困難な程、日本と縁遠い国である。同じ西アフリカ共同体の隣国であり、カカオ生産世界第2位のガーナがこれまで歴史的にも野口英世の貢献を基として、以後日本としても積極的に援助を行い、結果として現在政治的、経済的に非常に発展したことと比較すると、シェラレオネの場合は1992年から10年間続いた内戦が国を崩壊させ、西アフリカの中では勿論、世界でも最も貧しい国となり、日本との関係においても僅かな貿易と無償資金を除けばほぼなしという状況を鑑みると、同じ西アフリカ共同体においても国ごとの状況、日本との関係性は大きく異なっている。

本案件は、これまで主にガーナ産カカオを扱い、日本で輸入卸販売の事業基盤を築いてきた弊社が新規事業としてシェラレオネ共和国のカカオの取り扱いを行い、ガーナに代わる西アフリカのカカオの優良産地として日本やアジア諸国市場に品質で勝負し、販売を拡大していくことを事業の長期的な事業の目的とする。

長期的な販売拡大を目指すにあたり、短期的な目的として弊社として輸入企画実証事業期間内の2年間はシェラレオネ産カカオの品質向上、生産数量の拡大を実現することが最大の目的であり、それを行うための正確な現状把握、今後の施策の策定を行うことが初年度の重要な目的である。

そして、本案件を弊社がどうしても行いたい、やらなければならぬと考える本質的な目的は、本案件を契機として、弊社自体が営利事業として長く本事業を継続していくことでシェラレオネのカカオ農家の収入向上に直接的に寄与し、それにより農家の方々の生活環境の改善に間接的に貢献していくことである。

#### 1.2 背景

##### ①経済的背景: 国の経済環境と輸出産業

シェラレオネは総人口が560万人であり、そのうち約半分は首都のフリータウン周辺地域の西州(WESTERN)に集中している。残りの半分は中央、東地域の各地区に点在している。主要産業は鉱業でそのほとんどがダイヤモンドである。農業分野では以前よりコーヒー、カカオが主要品目となっているが、輸出産業におけるシェア9割以上をダイヤモンド1品が占めており、農業分野自体のシェアが低い。

下記の表1:Bank of Sierraleoneの1994-2005年までの輸出統計によると、2005年に輸出産業全体で1.52億米ドルの内、93.4%はダイヤモンド。それに次ぐ商品が農業分野のカカオとなっており、566万ドルで輸出全体に占める割合は3.7%である。この統計資料からも輸出産業における農業分野のシェアは低いものの、カカオが最も大きな輸出農業作物であること分かる。2002年の内戦終了後に輸出作物として唯一外貨を獲得している農作物と言える。

『図表1:Bank of Sierraleoneの1994-2005年までの輸出統計』 単位:千米ドル

Period	Diamonds	Bauxite	Rutile & Ilmenite	Gold	Coffee	Cocoa	Piassava	Fish and Shrimps	Others	Total
1994	25,557	16,440	58,808	741	2,650	2,877	95	1,012	5,165	113,345
1995	22,002	0	0	38	4,458	2,190	118	1,824	8,764	39,394
1996	28,307	714	2,287	168	1,418	2,475	99	1,842	7,806	45,116
1997	7,554	1,426	0	0	2,024	2,041	23	1,080	2,478	16,626
1998	1,785	0	0	6	1,055	1,455	144	78	1,694	6,216
1999	1,245	0	1,320	0	730	569	72	0	540	4,475
2000	10,067	0	0	0	639	302	18	8	1,008	12,042
2001	26,273	0	0	1	23	266	8	16	1,740	28,327
2002	41,732	0	0	0	272	1,219	26	22	3,090	46,362
2003	76,666	0	0	0	40	2,573	3	23	4,650	83,954
2004	126,330	0	0	162	53	5,260	2	24	4,056	135,887
2005	142,202	0	0	264	504	5,659	0	76	3,168	151,873

Source: Bank of SL

一方、国全体としてGNIは17.8億米ドル(08年世銀資料)で、ガーナの157億米ドルと比較すると非常に経済力は非常に小さく、一人当たりGNIで比較しても320米ドルとガーナの670米ドルと比較して半分以下の数値となっている。

対日貿易関係においては、対日輸出4億円(非金属鉱物)、対日輸入22億円(乗用車、貨物自動車)となっており、農業や水産分野での貿易は実績がない。また日本からの直接投資では進出企業『0』という日本企業にとってまさに“未開の国”となっている。

日本からの援助実績は2008年までの合計で190億円であり、ほとんどが無償資金提供となっている。

## ②シエラレオネの生活環境 背景

『ユニセフ世界子供白書 2009』の資料によると、シエラレオネでは5歳未満死亡率26.2%とで、妊婦死亡率1.8%で世界ワースト1位、乳児死亡率15.5%と平均寿命42歳で世界ワースト2位。そして、1日1.25米ドル以下で生活する人の比率は53%。内戦終了から7年が経った現在も非常に厳しい生活・保健環境が示されています。

更にシエラレオネ国のそれぞれの地区毎の貧困の状況を調査した結果が下記にある。

『図表2:地区毎のFood Poverty & Total Poverty の状況』

\*Food Poverty…人間が健全に生きていくのに必要な2700カロリーを摂取出来ていない人口の%

\*Total Poverty…衣食住など生活に最低限必要なものが何かしら購入できていない人口の%

(Ordered by total poverty)	Food Poverty %			Total Poverty %		
	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total
Kailahun(案件)	25.7	54.9	45	86.2	94.6	92
Bombali	25.1	69.6	63	83.4	90.0	89
Kenema(案件)	19.5	52.4	38	77.5	95.0	88
Bonthe	39.9	33.1	35	88.7	83.5	85
Tonkolili	36.4	31.0	32	87.7	84.2	84
Port Loko	12.7	22.6	20	71.9	85.0	82
Koinadugu	28.6	29.2	29	81.1	76.3	77
Kambia	--	11.6	9	75.6	67.7	69
Moyamba	11.1	17.4	16	59.0	70.1	68
Kono(案件)	9.2	35.2	22	52.9	79.6	66
Bo	27.3	24.3	25	59.9	66.8	64
Pujehun	7.7	16.3	14	58.5	58.6	59
Western Rural	--	26.3	15	--	70.1	45
Western Urban	3.2	--	2	17.1	--	15
<i>National</i>	<i>14.7</i>	<i>32.8</i>	<i>26</i>	<i>54.3</i>	<i>78.9</i>	<i>70</i>

Source: Sierra Leone Integrated Household Survey, 2003/04, as per PRSP

Note: -- Not available or does not apply

上記の調査からわかることは、

- ・シエラ国としての貧困の状況自体が非常に厳しい
- ・カカオの主産地である東州は貧困の状況が国の中で最もひどい地域である。
- ・全体的に農村部で必要なカロリーを摂取できない緊急性の高い状況が高いが、東州の農村地域